

# 就労支援における生成AI活用の現状と期待

-就労系事業所の支援者と利用者の調査結果から-

- 山口明乙香（高松大学発達科学部）
- 市本真澄（アクセンチュア株式会社 コーポレート・シチズンシップ）
- 六車浩（SCCGroup西宝町）
- 堺勝信、田中香菜子、奥山友理映、菅紀子、大久保郁子（アクセンチュア株式会社 コーポレート・シチズンシップ）
- 中尾文香（NPO法人ディーセント・ワークラボ）

問題の所在 ▶ 障害者の「働く力」と支援の質の向上のためのDX

生成AIの普及と機能の向上による  
「働き方」の大きな変化

生成AIをより効果的に  
活用できるか否か

新たな時代の「働く」への適応  
制限のある人的環境による支援  
の質の維持向上

調査方法 ▶ オンラインアンケート

期間	25年5月26～6月20日
内容	ICT端末の使用の現状、生成AIの活用状況
対象者	全国就労支援所1300施設(回答：131名)

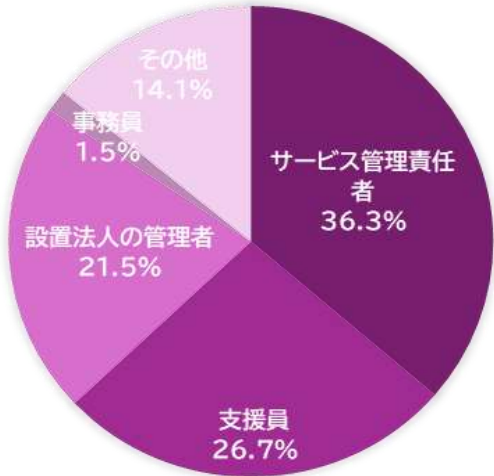
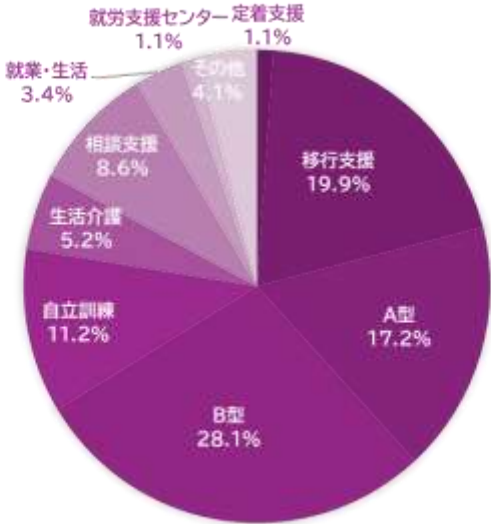
結果 ▶ 回収率

支援者	131名 (8.9%)
当事者	74名(5.1%)



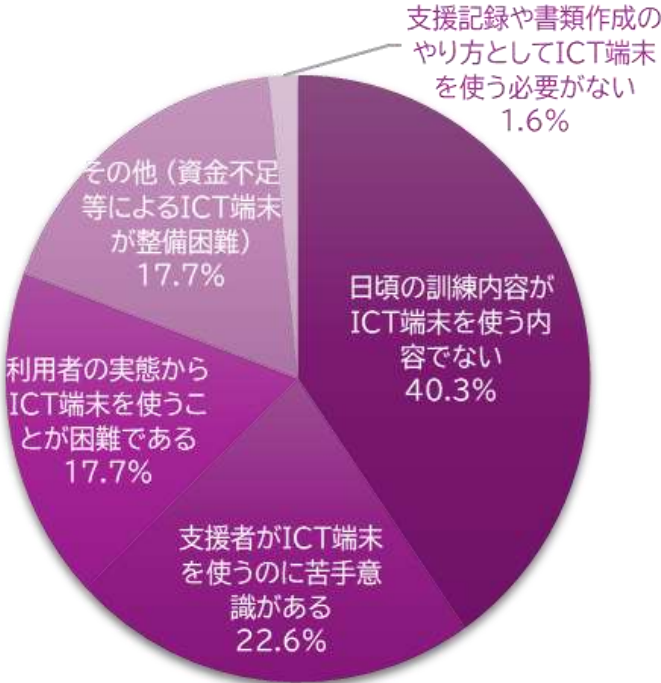
調査結果 就労系事業所におけるICT端末と生成AIの使用状況

支援者の  
使用状況



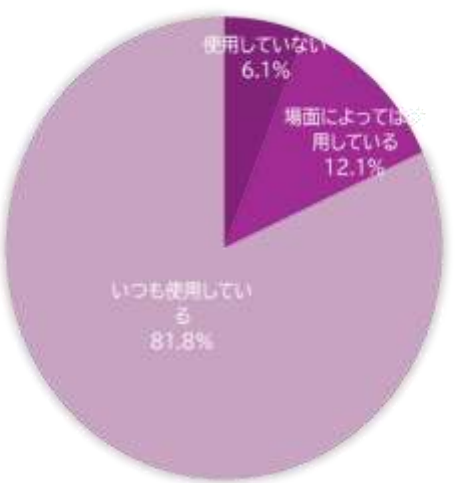
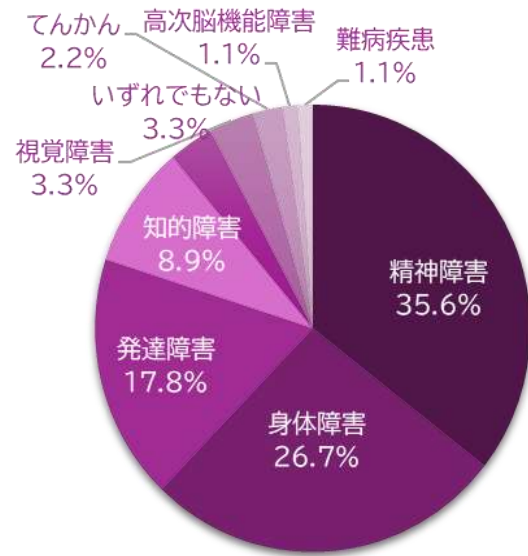
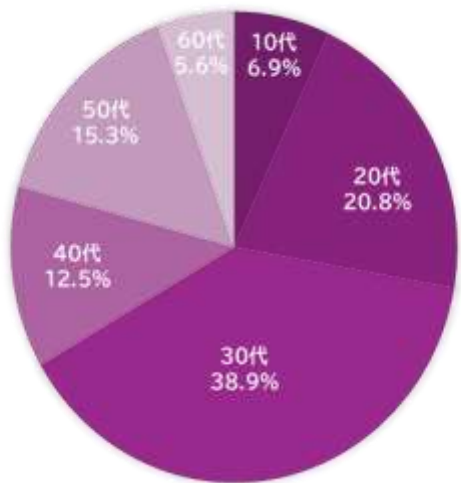
ICT端末の活用場面<N=104>		N	割合
1	支援者が事業所運営の事務作業で使用している	93	89.4%
2	支援者が本人の作業の記録を残すために使用している	89	85.6%
3	支援者の研修などの場面で使用している	88	84.6%
4	支援者が外部の関係機関等との連絡調整及び連携において使用している	87	83.7%
5	支援者が支援計画を作成する場合に使用している	86	82.7%
6	本人のプログラムなどの学習場面で使用してもらっている	60	57.7%
7	日報などを本人に入力してもらい記録してもらっている	35	33.7%
8	アセスメントを実施する作業で本人に操作してもらっている	29	27.9%

# 支援者のICT端末を活用していない理由



当事者の  
使用状況

# 当事者のICT端末と生成AIの使用状況




# 支援者と当事者の生成AIの使用状況と使用場面

生成AIの使用頻度	日常生活		支援の過程	
ほぼ毎日使用している	24	21.6%	17	15.3%
週に3-4日使用している	10	9.0%	7	6.3%
週に1-2日使用している	20	18.0%	8	7.2%
月に1-2日使用している	20	18.0%	25	22.5%
全く利用していない	39	35.1%	54	48.7%


支援者割合	支援者回答数	支援者順位	生成AIの活用場面	利用者順位	利用者回答数	利用者割合
55.43%	51	1	情報の検索などの場面	1	25	42.4%
41.30%	38	3	困ったことや悩んだことへのアドバイスをもらう場面	2	20	33.9%
50.00%	46	2	書類の要約などの情報の簡素化と整理の場面	3	17	28.8%
17.39%	16	7	上記のいずれでもない	4	14	23.7%
27.17%	25	4	画像や素材の作成の場面	5	13	22.0%
10.87%	10	10	生成AIとの会話やコミュニケーションの場面	6	8	13.6%
15.22%	14	8	データの分析や分類の場面	7	7	11.9%
14.13%	13	9	プログラムコードの作成などの場面	8	7	11.9%
21.74%	20	5	学習教材や支援プログラムの作成などの場面	9	5	8.5%
5.43%	5	11	その他（具体的に）	10	5	8.5%
19.57%	18	6	支援計画の素案の作成などの場面	11	1	1.7%

生成AIの使用頻度	日常生活		訓練の過程	
ほぼ毎日使用している	13	19.1%	5	7.7%
週に3-4日使用している	15	22.1%	14	21.5%
週に1-2日使用している	3	4.4%	3	4.6%
月に1-2日使用している	10	14.7%	6	9.2%
全く利用していない	29	42.6%	39	60.0%



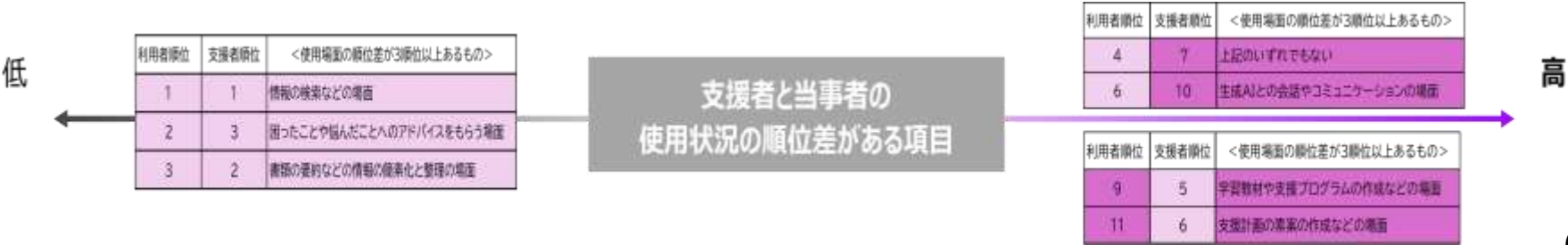
### 支援者目線

情報検索や書類要約、画像、素材作成などが業務効率を高める場面に高い割合を示した



### 当事者目線

情報検索に加えて、困ったことや悩んだことのアドバイスや会話やコミュニケーション場面での活用も支援者と比較して高い割合を示した



# 生成AI活用の期待

当事者  
活用の  
期待

困りごとや悩みへのアドバイス、コミュニケーション  
場面における生成AIの活用、**自身の苦手や  
作業負担の軽減、自分の工夫の拡大を補助**



支援者  
活用の  
期待

人的資源の制限のある事業所においては、支援  
者の業務負担の軽減やプログラムや教材作成  
などの負担軽減、属人的な**経験の凸凹を補完**

